

## 2006年10月6～9日の発達した低気圧による北日本の豪雨災害\*

岩手県立大学総合政策学部 牛山素行・國分和香那

2006年10月6日から9日にかけて、発達した低気圧により、東北、北海道地方の各地で豪雨が発生した。AMeDAS観測開始(1979年)以降最大値を更新した観測所(統計期間20年以上)は、1時間降水量0箇所、24時間降水量15箇所、48時間降水量30箇所であった(図1)。同様の方法で集計した近年の豪雨事例と比較すると、表1のようになり、広範囲で特に長時間の降水量が更新された観測所が多かった。この低気圧による全国の被害集計は消防庁などから発表されていないが、被害が多かった東北6県および北海道の道県庁の資料をもとに集計すると、死者1名、住家の全壊0棟、半壊13棟、一部損壊1,084棟、床上浸水272棟、床下浸水1,042棟などとなる。表1の各災害では、いずれも死者10名以上(2002年台風6号のみ7名)、浸水家屋数1万棟以上が生じており、降水量の最大値更新観測所数の割には被害が少なかった。

岩手県葛巻町では、1名が川に流されて死亡した。この犠牲者は、一旦指定避難場所に避難した後に外出し、どこかで川に転落するなどして遭難したものと見られている(図2)。7日夜に遭難したと推定されているが、独居者であったことなどから、行方不明であることが10日午前(11日午前遺体発見)まで2日以上覚知されなかった。被災形態自体は珍しくないが、豪雨災害で犠牲者の覚知がここまで遅れることは、近年では例がない。独居者の被災はむしろ都市部で発生の可能性があり、今後の防災対策上の課題が示唆された。

表1 1979年以降最大値を更新したAMeDAS観測所数

事例名	1時間	24時間	48時間
2002年台風6号	9	32	33
平成16年新潟豪雨	3	10	8
2004年台風23号	1	30	30
2005年台風14号	0	56	64
平成18年7月豪雨	5	22	62
今回事例	0	15	30

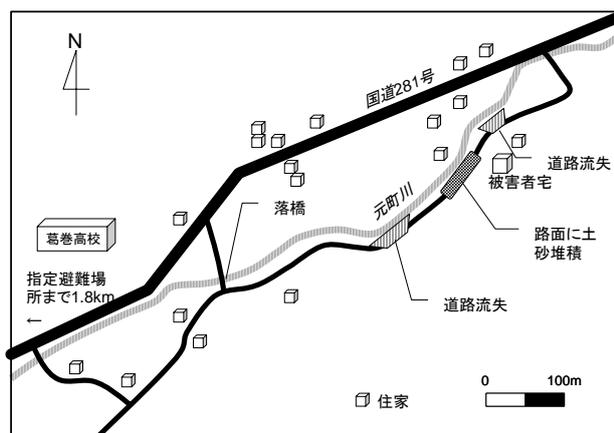


図2 葛巻町犠牲者の自宅付近

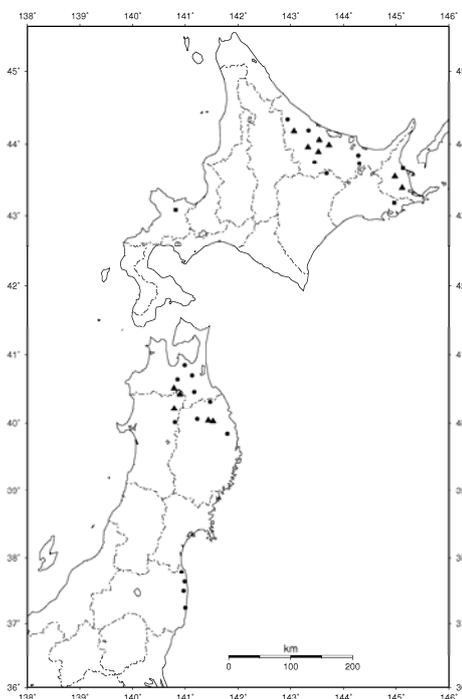


図1 最大値更新 AMeDAS 観測所分布図

\* A heavy rainfall disaster caused by severe extratropical cyclone in northern Japan on October 6 to 9, 2006.  
By Motoyuki USHIYAMA and Wakana KOKUBU.